目指す出口 十人十色

ともしび求めて ●3●

ひきこもり支援の模索

ひきこもりになるきっかけや苦しさは十人十色とされ、多様な支援が求められる。新潟市西区でフリースクール「ロビオキ」を運営する野口治さん(45)は「まず生きる環境をつくること」と強調する。

3年前からホームレスや刑務所の出所者ら生活に困難を抱える人を対象に、アパートを提供する居住支援に取り組む。昨年、ひきこもりの40代男性を受け入れた。男性は就職でつまずいたことがきっかけだったという。

野口さんはフリースクールで不登校の子どもに寄り添い「生きづらさ」に触れてきた。ひきこもりを選択することを否定しない。ただ「40、50歳まで長期間ひきこもり状態で職歴がない人を支援するのはかなり難しい」とみる。親が亡くなり家庭の収入が途絶えた時に、当事者は孤立死の危機に陥ることもある。

そこで考えた事業は親が元気なうちに単身で暮らし、社会性を養おうというものだ。当事者が親と世帯分離し、生活保護を受給しながらアパートで生活。家賃は保護費の一部を当てる。野口さんは折に触れ世間話を交わし、困り事がないか確認。他の居住支援者と同様、必要に応じて支援機関につなぐ。

選択肢

相談窓口のハードル下げ

フリースクールで授業をする野口治さん。不登校の子どもたちにも向き合う＝新潟市西区

自宅から無理やり連れ出し問題になっている「引き出し屋」とは違うという。ともに活動する野口さんの母が、この男性と将来について1年以上話し合いを重ね入居の同意を得た。親は男性の意思を尊重した。

半年以上の単身生活を経た男性は、表情が生き生きするようになるなど、野口さんの想像以上に活力を取り戻し、就労への意欲も見せてきた。

野口さんは「『外に出るイコール就労』ではない。ゴールの設定はいろいろあっていい」と語る。

2011年に開設された新潟市ひきこもり相談支援センター（同市中央区）には年間のべ2千件前後の相談が寄せられ、訪問支援や居場所づくりなどに当たる。

親から相談を受け、当事者と顔を合わせるまで1年以上かかることもあれば、いったん相談を中断し、10年近くたって再び電話がきたというケースもある。

国は市町村にひきこもりの相談窓口の明確化を求めている。同センターもその一つだ。だがセンター長の齋藤勇太さん(38)は「分かりやすくなることで、かえって相談に行きづらくなる人もいるだろう」とみる。「相談しやすい環境」といっても受け止め方は多様だ。

そのためセンターだけでなく「困り事を相談できるハードルを下げ、支援の選択肢を広げることが問われている」と考える。福祉関係者の研修会などに出向き、電話対応のアドバイスを行い支援者の輪を広げる。

齋藤さんは「自立した後に孤立したら意味がない」と指摘する。進路が決まった後も「ふらっと立ち寄れる場所」を用意することも求められているという。

性被害 国と加害者提訴

元自衛官 五ノ井さん「しっかり責任を」

陸上自衛隊の性被害を実名で訴えた元自衛官五ノ井里奈さん(23)が30日、国や懲戒免職となった元隊員5人を横浜地裁に提訴した。国には、自衛隊のハラスメント防止策が不十分で、現役当時の被害相談に対する調査がおろそかだったなどとして200万円、5人からは精神的苦痛を受けたとして計550万円を請求した。

記者会見する元自衛官の五ノ井里奈さん＝30日、東京・内幸町の日本記者クラブ

五ノ井さんは東京都内の日本記者クラブで会見し「できることなら闘う選択をしたくなかった。好きな自衛隊を辞めざるを得ず、たくさんのものを失った。その責任を、しっかり取ってほしい」と強調。性被害根絶に関し「私だけの問題ではなく、ハラスメントがすごくあるのは事実。一人一人が大切にされる正しい正義感を持った組織になってほしい」と訴えた。

五ノ井さんや弁護士の説明によると、訴訟では、国は安全配慮義務に違反し、元隊員5人からは、体を触ったり押し倒したりするなどした性的暴行で精神的苦痛を受けたとしている。

国家賠償法は公務員が職務中にもたらした損害は、原則として国に賠償責任があるとする。弁護士は「今回は自衛隊の公務と関係なく違法性が非常に高い。個人が責任を負うべきだ」と説明。仮に5人の責任が問えなかった場合は、5人の分も合わせた計750万円を国に求めることも盛り込んだ。

昨年11月、加害者のうち3人と示談交渉を始めたが、提示された示談金が1人約30万円と少額で、弁護士から個人の責任を疑問視すると受け取れる発言があった。意図を書面で尋ねても返答がなく、交渉は事実上中断。五ノ井さんは「謝罪は表面的で、反省していないと感じた。互いの主張をオープンにし、真実を明らかにしたい」と提訴の理由を説明した。

防衛省は「訴状が送達された時点で、関係機関と検討し、適切に対応したい」とコメントした。

「闇バイト」か 口座譲渡の疑い 自衛官2人逮捕

神奈川県警

キャッシュカードやインターネット銀行の口座IDを他人に譲り渡したとして、神奈川県警は30日、犯罪収益移転防止法違反の疑いで、陸上自衛隊大宮駐屯地所属の陸士長林田武紘容疑者(22)と、陸自習志野駐屯地所属の3等陸曹元木悠太容疑者(23)を逮捕した。林田容疑者は口座の売却益を得ており、ネットで募られた「闇バイト」だった可能性がある。

捜査2課によると、横浜市で昨年あった特殊詐欺事件で、両容疑者が譲り渡した口座に100万円と約200万円が振り込まれていた。背後に組織的な詐欺グループがあるとみて譲り渡し先を調べる。

逮捕容疑は昨年5月ごろ以降、林田容疑者がネット銀行口座のIDやパスワードを何者かに売却し、元木容疑者が銀行口座のキャッシュカードを渡して暗証番号を伝えた疑い。

林田容疑者は、交流サイト（SNS）で「高収入の副業」との投稿などを見て、口座を2万～3万円で売ったという。

染める雪原 深まる藍色

妙高 ジーンズ雪さらし

独特の風合いを出すためにジーンズの雪さらし＝30日、妙高市姫川原

妙高市姫川原のジーンズ製造販売「マルニ西脇」が30日、ジーンズの雪さらしをした。色や質感に独特の風合いを出すための作業で、新雪に鮮やかな藍色が映えた。

妙高市特産の調味料「かんずり」や小千谷市の麻織物「小千谷縮」の雪さらしに着想を得て、毎冬行っている。今年は少雪で例年より半月ほど作業が遅れていたが、この数日で1㍍以上積もり、準備が整った。

水道水よりも鉄分が多いとされる地下水にジーンズを漬け込んだ後、雪上にさらすと藍色の深みが増し、生地の凹凸が際立って肌触りも良くなるという。この日は西脇謙吾社長(54)らが会社敷地内でジーンズ20本を1時間ほどさらした。3月中旬ごろまでに約500本をさらし、2月上旬から店頭に並べる。

西脇社長は「雪国の風土が感じられるジーンズに仕上げたい」と力を込めた。

動画はこちら

鮎川誠

74歳「ロックンロール」

ロックバンドロケッツ」のギ
ミュージシャ
（あゆかわ・ま
が29日午前5時
がんのため東京
死去した。74歳
身。告別式は家
葬儀は「鮎川誠
葬」として、
後5時から8時
都世田谷区代沢
1、森巌寺開山
喪主は長女陽子
さん。

1978年、
ルのシーナ（故
さんらとバンド
「涙のハイウェ

勝城　蒼鳳さ
ろ・そうほう＝列
間国宝、本名二
28日午後2時3
ため栃木県那須
院で死去、88歳
身。自宅は栃木
市野沢1679
・告別式は2月
時半から大田原
1498の1、
ス大田原ホール
場で。喪主は長
けゆき）さん。

竹ひごの編み
を組み合わせた
風で、05年に人
定された。日本
に作品を発表し
事賞などを受賞

阿部　市次さ
いちじ＝列車転
人全員が無罪と
の松川事件で存
後の元被告）昨
午前9時43分、
福島市御山井戸
自宅で死去。99
出身。葬儀・告
者で営んだ。喪

児童買春容疑で
藤見中校長
人事異動発
新

女子高校生に
約束をしてわい
為をしたとして
藤見中学校長の
疑者が児童買春
止法違反（児童
いで逮捕され
け、同市教育委
2月1日付で支
支援課の品田